

こんな活動です!!

地域を学校の宝に、そして学校を地域の宝に

活動名

王寺北小学校支援地域本部
【奈良県王寺町】

関係する学校

王寺町立王寺北小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	8人	123人	20年度	なし
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	一学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

「北小PLAN22」～特色ある教育活動を展開し、児童・教職員・保護者・地域が誇りとする学校～(平成20年度から3年間の中期目標)のもと、学校支援地域本部事業により地域や保護者との連携を図り、様々な取組を実践し、地域に誇れる学校づくりをめざした。具体的には、「学習指導のサポート」「図書室の運営サポート」「科学教室の運営サポート」「花と緑の環境整備と登校付き添い活動」の4部門に分かれて学校支援ボランティア活動を行っている。ボランティアとして、保護者や祖父母はもちろん、様々な職業の方々が登録し、児童の教育活動を支援している。

特徴

地域による学校支援活動を始めてからの3年間で、本校にかかわっていただいたボランティア総数は、のべ7,900人にも上る。この間、王寺北小学校は、大きく変わった。このことは、学校評価アンケート調査にもよく現れている。

全保護者を対象にしたアンケートの「学校は特色ある教育活動をしている」という項目での肯定的回答率は、42%(H18)から90%に達した。(教職員は同項目で62%(H18)から100%)また、全児童対象のアンケートで「学校の勉強は、わかりやすい」という項目では肯定的回答率は、77%(H20)から90%に、「学校が好きだ」の項目では86%であった。

学校支援ボランティアによって学習環境が整い、学習活動が活発になり、児童の学習意欲と教職員の意気込みが高まり、学習効果上がる。そして、その効果を目の当たりにすることによって、さらにまた支援活動が活発化し、その成果がまた学校改善へとつながっていくという、まさに「学校支援スパイラル効果」と言うべき状況が起こっている。

【学習指導のサポート】



▲3年生 そろばんの学習



▲5年生 合奏パート別練習



▲6年生 ミシンの実習

【図書室の運営サポート】



▲図書室の本の修理・整理

【科学教室の運営サポート】



「北小科学教室」

○毎月1回土曜日に開催。科学工作を中心として毎回違った内容で実施している。外部から講師を招いたり、科学ボランティアが指導したりして児童に科学のおもしろさを体験・体感させている。

【花と緑の環境整備】



○各学年の要望に基づいて、畝作りや植付・除草・施肥・収穫などのお手伝いしてもらっている。また、同じメンバーで登校付き添い活動も行い、児童の安全確保の一翼を担っていただいている。

事業を実施して

取組当初は、ボランティアの方々に「ありがとうございます」と申し上げるばかりであったが、最近は逆にボランティアの方から「ありがとう」を言ってもらえることが多くなってきた。またそのころから具体的な効果が表れてきていると感じるようになってきた。地域の方々に支援していただいて学校が活性化し、地域の方々が学校を自己実現や生涯学習の場として活動することで、地域文化の向上や活性化につながっていく。つまり、学校と地域が互いに支援・貢献し、感謝し合える関係を築くことが公立学校運営や経営の要であり、重要な要素であることを、この取組を通して実感し、確認することができた。

こんな活動です!!

町内すべての学校(4校3園)の様々な「求め」に、専門のボランティアを派遣し学校教育を支援する

活動名

大淀町学校支援地域本部【奈良県大淀町】

関係する学校

大淀町立大淀中学校、大淀桜ヶ丘小学校、大淀希望ヶ丘小学校、大淀緑ヶ丘小学校・幼稚園

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	4人	575人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
	実施場所			開始年度
	-	-	一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	-学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

- ・地域住民が教職員と連携することにより、子どもたちに豊かな教育環境を保障し、今日的な「おらが学校」づくりをする。
- ・子どもの登下校の安全確保活動、学校緑化花づくり支援活動、学校園環境整備支援活動、遠足引率付き添い支援活動、プール・水泳・剣道等クラブ活動支援、パソコン支援活動、学生ボランティア活動、稲作チーム活動、運動会等学校行事支援活動、職場体験事業者協力活動、高齢者の昔のくらしや戦争の語り部等の活動、点字や手話等の指導、ゲストティーチャー、図書室支援活動、小学校外国語活動(英語)支援活動他。

特徴

<特徴的な活動内容>

- 小学校外国語活動(英語)において、文部科学省の「英語ノート」に対応した教員並びにALT用の年間35レッスンの英語冊子を作成し、全国から問い合わせがある。

<実践に当たっての工夫>

- インターネット・ホームページ、テレビ、ポスター、パンフレット、ちらし、広報誌、新聞等積極的に広報活動を展開している。
 - ・ボランティア登録者の募集、ボランティア活動の様子を周知する等。
- 参加者・活動の拡充
 - ・ボランティア登録者600名弱(町民2万人弱)、20数種類の事業活動、年間延べ1,000回以上の活動回数である。
 - ・教員を目指す学生ボランティアは「先生の卵」として授業や事務処理等をサポート、掃除・休み時間には子どもたちと関わりながら学んでいる。一方、教員もやりがいを持って学生ボランティアに関わり、学校に活気が生まれ喜ばれている。



英語冊子



ポスター



学生ボランティア



パンフレット

事業を実施して

- ・学校支援地域本部活動を積極的に利用するようになったことで、地域に学校が開かれてきた。
- ・昔からの地域は少子高齢化が顕著で、一方、新興住宅地には子どもは多いがボランティアが少ないことから、ボランティアや保護者がともに参加し、学校を支援することで地域全体で子どもを育てる環境が整いつつある。

こんな活動です!!

子どもたちを中心に据え、世代を超えた交流の場づくり

活動名

浮孔小学校支援地域本部
【奈良県大和高田市】

関係する学校

大和高田市立浮孔小学校

活動の区分

学校支援地域本部	放課後子ども教室	コミュニティスクール	その他
○	-	-	-

●基本データ

学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	103人	20年度	あり
放課後子ども教室	コーディネーター数	子どもの平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	一人	一人	一日	-
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	-		一年度	-
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	-	一人	一人	一学級

※H22年度の実績(補助の有無についてはH23年度の状況)

活動の概要

- 学習支援活動:外国語活動(英語)、家庭科補助(ミシシがけ・調理実習)、図工(絵画指導・陶芸指導)、音楽(雅楽演奏・琴)、地域学習の補助(町探検・土器体験)、戦争体験の話、クラブ活動(卓球・ソフトバレー・バドミントン・バスケット)。
- 環境整備:生け花(10年以上、自分の畑で育った花を生けてくださっている)、トイレ明るくきれいな作戦、図書室環境整備、屋根修理、校庭清掃、樹木消毒、剪定。
- 学校行事:奉仕作業、親睦レクリエーション指導、キャンプファイヤー(消防団の人達による消火活動)、マラソン大会清掃、運動会テント張り、学校支援ボランティアの集い参加(ボランティアの体験発表・内容掲示)。

特徴

- 「学校・家庭・地域が一体となって健やかな子どもを育てます」「子ども・教職員・保護者・地域住民みんなで作る笑顔いっぱいの学校」を合い言葉に、実践活動の質と量を高め、学校力と地域力の合力による教育全体の推進を図り、学校、地域全体が温かい雰囲気になれるよう取り組んでいる。
- 学校の教職員と地域とが一体となって事業を成功させようとする意欲と熱意。
- 学校の教職員とボランティアの需要と供給の両輪がうまくかみ合い、作動し、年々ボランティア活動の幅が広がっている。
- 校区内のボランティアのみにとどまらず、市内のボランティア達の支援も得ている。地域ボランティアの組織化。
- 効果的な教育資源の収集・蓄積(ゲストティーチャー)。



生け花ボランティア(10年以上続いている)



絵画ボランティア(日本画家の先生方)



部活動ボランティア(体育協会の先生方)



キャンプファイヤーの後の消防ボランティアの方々

事業を実施して

- 事業関係者からの感想:(ボランティア)「地域に住みながら、学校の中に入る機会がなくなっていたが、子どもたちと交流することが出来、生きがいと元気と喜びをいただいた。今後もボランティアをしていきたい。」(学校)「学習支援の場では、教職員とボランティアの協働で学習効果を上げることができた。」「児童・教職員・PTA、ボランティアがともに活動する場が増え、人の和が広まった。」(事業担当者)「地域に発信すれば、それ以上の支援が返ってくるというのが実感である。地域の教育力の深さを発見するたびに驚かされる日々であった。地域の方々の『学校を何とかしてあげなくては』という思いに支えられての学校である。地域とつながり、地域とともに歩む学校であり続けることを再認識した。」